

## 「日本はもっと声高に発信を」 ASEANジャーナリスト招聘プログラムを実施

期 間： 2019年11月18日(月)～21日(木)  
ジャーナリスト： アズマン・ウジャン マレーシア・ナショナル・ニュース・エージェンシー(ベルナマ通信) 会長 [マレーシア]  
ナリラット・ウィリアポン バンコクポスト紙 アジアフォーカス編集委員 [タイ]  
ロバータス・ベニー・ドゥイ・コエスタント コンパス紙 国際経済担当記者 [インドネシア]  
ウォルター・シム ザ・ストレイツ・タイムズ紙 日本特派員 [シンガポール]  
コーディネーター： 森 英一 経済広報センター 国際広報部主任研究員

経済広報センターでは、11月18日から21日にかけて、2012年以来となるASEANジャーナリスト招聘プログラムを実施した。

マレーシアからマレーシア・ナショナル・ニュース・エージェンシー(ベルナマ通信)会長のアズマン・ウジャン氏、タイからバンコクポスト・アジアフォーカス編集委員のナリラット・ウィリアポン氏、インドネシアからコンパス国際経済担当記者のロバータス・ベニー・ドゥイ・コエスタント氏が来日したのに加え、シンガポールのストレイツ・タイムズからは日本特派員のウォルター・シム氏が参加。鈴木馨祐外務副大臣をはじめとする産学官関係者との懇談や企業視察等を精力的に行った。

21日に開催した総括シンポジウムでは、藤田正孝日本アセアンセンター事務総長の基調講演に続き、招聘ジャーナリスト4名をパネリストとしたパネルディスカッションが行われた。経済環境が急速に変化するなかにおいても、相互に実情をよく理解することにより、これまで積み重ねてきた日本とASEANの信頼関係を基盤としてパートナーシップを強化することが重要との認識で一致した。特に、ASEANジャーナリストからは、日本がもっと自信を持ち、国際舞台で声高に存在をアピールして行く必要があるとの発言があり、ASEAN諸国における日本の存在感向上への熱い期待が示された。



左から、コエスタント氏、ウジャン氏



左から、ウィリアポン氏、シム氏

以上